



第2回日本医学ジャーナリスト協会賞 (2013年度)
発表・授賞式・記念シンポジウム

昨年度、当協会設立25周年を記念して創設された「日本医学ジャーナリスト協会賞」は、第2回目を迎え、10月22日、日本記者クラブにおいて、発表・授賞式・ミニシンポジウムが行なわれました。

大賞など、優れた作品に選ばれたのは次の通りです。



第2回 日本医学ジャーナリスト協会賞 受賞作 (2013年度)

| | | |
|------|------|---|
| <大賞> | 新聞部門 | 毎日新聞社科学環境部 河内敏康さん、八田浩輔さん 降圧剤「バルサルタン」の臨床試験をめぐる疑惑に関する一連の報道 |
| | 書籍部門 | 六車由美『驚きの介護民俗学』(医学書院) |
| | 映像部門 | 貸し出し型DVD3部作『認知症ケア』(NHK厚生文化事業団) NHK制作局文化・福祉番組部ディレクター 川村雄次 |

| | |
|-------|---|
| <特別賞> | 『TIP 正しい治療と薬の情報』 医薬品・治療研究会(別府宏園代表) |
| <優秀賞> | 上原真人、八重山の医療を守る郡民の会 『八重山病院 データでムヌカンゲー』(ボーダーインク) |
| | 藤原瑠美『ニルスの国の認知症ケア』(ドメス出版) |

受賞理由は以下の通りです

| | | |
|------|------|--|
| <大賞> | 新聞部門 | 降圧剤「バルサルタン」の臨床試験をめぐる疑惑に関する一連の報道 毎日新聞社科学環境部取材班 河内敏康さん・八田浩輔さん |
| | | 毎日新聞社科学環境部取材班 河内敏康さん・八田浩輔さん 製薬会社ノバルティスファーマ社の降圧剤「バルサルタン」(商品名ディオバン)の臨床試験に不正があったのではないかと疑惑は、2013年2月の毎日新聞記事から始まりました。3月には、ノバルティス社社員が統計責任者になっていたこと、また、同社から巨額の奨学寄付金が出ていたことなど、疑惑を決定づける特報で、日本の臨床試験の問題点を浮き彫りにしました。その後も、過剰な宣伝の問題点や医療保険財政への影響への懸念をいち早く指摘するなど、医学ジャーナリズムの健在を示しました。 |
| | 書籍部門 | 『驚きの介護民俗学』(医学書院) 六車由実さん |
| | | 大学の芸術学部准教授から、特別養護老人ホームの介護職員に転じた著者が、専門としてきた民俗学の手法を生かし、認知症の人が話す言葉そのものを聞き逃さずに書きとめ、これをもとに本書を書き上げました。認知症については、かつては脳科学的解明が優先され、コミュニケーションの重要性が指摘されても、それはあくまでも「よい支援」をするためのものでした。本書は、認知症の人を「支援する対象」とだけ見ていては到達できない事実を明らかにしました。増えていく認知症に対応するには、今まで認知症にかかわっていなかった分野からもヒントを得ていく必要性を示唆しています。 |
| | 映像部門 | 貸し出し型DVD3部作『認知症ケア』(NHK厚生文化事業団) 川村雄次さん |
| | | 認知症になった時、人はどのように生きることが出来るのでしょうか？ ドキュメンタリーであると同時に、専門家にも家族にも認知症本人にも役に立つ、これまで例のない認知症ケアのDVDであることが、評価されました。第1巻「手探りで切り開いた認知症ケア きのこエスポワール病院の30年」／第2巻「自分らしく生きぬくために 小規 |

| | |
|-------|---|
| | <p>模多機能拠点 大畑の家」／第3巻「早期診断そして人生は続く 太田正博さんの10年」の3巻からなり、医学の目だけでなく、生活を見る方向に、社会を変えるエネルギーを秘めています。</p> |
| <特別賞> | <p>『TIP 正しい治療と薬の情報』 医薬品・治療研究会(別府宏樹代表)</p> <p>1986年1月に創刊したこの雑誌は、製薬企業との金銭関係を完全に排し、購読料のみを資金に、最新の医薬品情報および副作用情報を提供してきました。日本で承認・販売されている医薬品について、国内外の論文をはじめ、製薬企業による承認申請資料、副作用情報などのデータを丹念に検討。これらのデータが意味するものを解釈し、論文には記載されていない事柄や試験の設計に作為がみられる場合はそれらの点を指摘し、真のリスクと便益を明らかにしようという、高い専門知識を背景とした意欲的な記事が、毎号紹介されています。エビデンスの本来の意義が問われ、利益相反の問題が広く認識されつつある今、30年近くにわたって、この二つの問題に真正面から取り組んできた本誌は、医学ジャーナリズムの本来の在り方を提示しています。</p> |
| <優秀賞> | <p>「ニルスの国の認知症ケア～医療から暮らしに転換したスウェーデン」 (ドメス出版) 藤原瑠美さん</p> <p>認知症になっても自宅でひとり暮らしを続けられるスウェーデンの詳細な現場情報を日本の政策を結びつけて紹介した、これまでにない本です。スウェーデン研究者からも、日本の政策担当者からも高く評価されていることから、社会的インパクトがあると評価されました。長期、短期の滞在を重ね、銀座和光の管理職の経験で培った知識と経験を生かし、基礎自治体の認知症ケアの現場を隅々まで歩いて網羅しています。国レベルの認知症政策が現場でどのように具現化されているか。介護スタッフの働き方や人生まで含めて詳細に描き出していることも評価されました。</p> <p>上原真人さん「八重山病院 データでムヌカンゲー」(ポーターインク)</p> <p>住民や観光客の命を守る八重山諸島唯一の県立総合病院・八重山病院麻酔科の医師が、多忙を極める日常業務の合間に病院・医療の実態や、比較分析データを八重山毎日新聞に発信し続け、その集大成が小冊子ながら起爆力を秘めた本になりました。患者動向や輸血量、周辺離島からの患者のヘリ搬送数、ごみ処分費用などにいたる多様なデータを様々な角度から分析。医療を丸ごと人間ドックにかけたような野心的な試みが評価されました。全国の医療機関にも通じる重いテーマで、医療について、一人ひとりにもっとムヌカンゲー(物を考えて欲しい)との問題提起がされています。</p> |